

本県は、自治体や特別支援学校長会として障害者スポーツ推進のための団体を設立したり、スポーツ大会を開催したりするなどの具体的な取り組みには未着手の状況です。そのため、特別支援学校の児童・生徒が障害者スポーツに触れ親しむ機会は、在籍校の体育(保健体育)の授業や部活動、個人で所属する学校外の既存の障害者スポーツ団体での活動などに限定されています。

このような状況ではありませんが、例えば、県立酒田特別支援学校中学部(聴覚障害)の生徒は、それぞれ居住地の中学校の部活動に参加しています。生徒数や教員数による活動の制約解消と生徒のニーズに基づく活動意欲の高揚を図るためです。県中学校体育連盟の地区大会には、酒田特別支援学校の生徒としてエントリーし、出場しています。居住地校の生徒と共に活動しながら、競技能力を高め、県

## 居住地の中学校の部活動に参加

大会や全国大会に出場する生徒も珍しくありません。日本ろう者水泳協会公認日本記録を複数マークし、世界ろう者水泳選手権大会に出場する逸材も輩出しました。部活動を通じた交流及び共同学習により、切磋琢磨しながら互いの理解を深めることができるという成果も十分見られました。

その他にも、体育の時間などにボッチャやフライングディスク、カローリング等を取り入れ、重点的に実施する特別支援学校が増えています。

今後はそれらの取り組みを促進し、地域住民を巻き込みながら充実させるとともに、特別支援学校同士も含め、広く県民に親しんでいただくための方策を県教育委員会と特別支援学校長会などが連携し早急に具体化していきたいと考えているところです。

(佐藤敦・山形大学附属  
特別支援学校校長)